

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：刑事警察費

事業名 子供の安全確保対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 生活安全部 少年課 電話番号：058-271-2424 (内 3062)

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,249 千円 (前年度予算額：1,345 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,345	0	0	0	0	0	0	0	1,345
要求額	1,249	0	0	0	0	0	0	0	1,249
決定額	1,249	0	0	0	0	0	0	0	1,249

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

現代の子供は、幼少期からインターネットに接しているが、近年、SNS等インターネットの利用に起因した非行や性犯罪被害が後を絶たず深刻な状況にある。保護者の中には、インターネットの危険な側面に対する意識が希薄で、少年の非行を防止し健全育成を図っていくためには、少年自身及びその保護者等の情報モラルを向上させることが喫緊の課題となっている。また、少年非行の低年齢化が見られることから、県内全域で運用しているMS・MSJリーダーズ活動をさらに活性化させ、少年非行の中心である中学生、高校生の規範意識の向上を図るとともに、被害少年等の対応にあたる少年補導職員等の支援能力向上を図る必要がある。

(2) 事業内容

- 大学生ボランティア等と協働した情報モラル教室の開催
- インターネットの安全安心利用及び情報モラルに関する広報啓発
- MS・MSJリーダーズ活動費
- 公認心理師の資格取得

(3) 県負担・補助率の考え方

県内に在住する少年の非行防止、犯罪被害防止及び支援に係る負担である

ことから、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	92	大学生ボランティア謝金
旅費	3	公認心理師資格取得旅費
役務費	52	公認心理師資格取得
需用費	1,046	啓発用リーフレット印刷費、MS・MSJリーダーズ活動用消耗品等
使用料及び 賃借料	56	MS・MSJリーダーズ研修用DVD制作費
合計	1,249	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

(2) 国・他県の状況

内閣総理大臣を本部長とする子ども・若者育成支援推進本部が策定した「青少年が安全に安心してインターネットを利用できるための施策に関する基本的な計画（第5次）」（基本計画）において、青少年のインターネットの適切な利用に関する教育及び啓発、インターネットを通じた青少年の犯罪被害の抑止対策等が示され、全国で取り組まれている。

MS・MSJリーダーズ活動については、岐阜県独自の事業である。

(3) 後年度の財政負担

基本計画は3年後に見直すこととされており、継続的に取り組んでいく必要がある。

MS・MSJリーダーズ活動については、継続的に支援を実施していく必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための施策に関する基本計画（第5次）において、警察に対しては、青少年のインターネットの適切な利用に関する啓発活動、インターネットを通じた青少年の犯罪被害の抑止対策等の推進が求められている。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 情報モラル教室を県内の中学校を中心に開催し、少年自身及びその保護者等の情報モラルの向上が図れた状態を目指す。
 少年非行の抑制を図り、総合的な少年非行防止の実施により、少年の規範意識の啓発と健全育成を推進する。
 被害少年のカウンセリング等に対し、より高度な専門知識を身に付ける。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2 年度	R3 年度	R4 年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
① 非行少年件数		378				%
② SNS等に起因する少年の福祉を害する犯罪被害件数(件)		33				%
③ MSリーダーズ数		7019 人				%
④ MSJリーダーズ数		6915 人				%
⑤ 公認心理師有資格者数(人)		5 人	10 人	15 人	15 人	66.6%

○指標を設定することができない場合の理由

少年の健全育成に向けた事務的経費であり、指標を設定することは困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	○令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、情報モラル教室は実施できず。 ○少年の規範意識向上対策の推進 ・MS・MSJリーダーズ活動の支援 ・中学生を中心とした少年非行防止タウンミーティングの開催6回
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>少年の非行、被害を防止したり、犯罪被害に遭った少年の二次被害を防止し、健全に育成するためには、警察の活動だけでなく、少年非行の中心となっている中学生・高校生の規範意識の向上や、大学生等若い世代のボランティアや地域社会、関係機関との連携による活動が不可欠であり、必要性は高い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	<p>県下の中学生・高校生がMS・MSJリーダーズとして各学校の特色を生かして地域に密着した規範意識啓発活動を独自に実施しており、県民から高い評価を得ている。また、被害少年のカウンセリングは少年の立ち直りに等に効果がある。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>経費の節減に努め、必要最小限の経費で実施しており、効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>少年非行は依然として厳しいものがあり、少年非行の中心となっている中学生・高校生の規範意識の向上のため、MSJリーダーズ活動の定着化、MSリーダーズ活動のさらなる活性化を図る継続した支援が必要である。また、大学生ボランティア等と共同した情報モラル教室については、小、中学生等との対面的な指導が効果的であるため、新型コロナウイルス感染が終息に向かう必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>深刻的な状況下にある少年非行を抑制し、総合的な少年非行防止対策を展開し、少年の健全育成を継続的に推進する必要がある。とりわけ、SNSに係る福祉犯事件の被害者が増加しており、情報モラル教育を一層強力に推進していく必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	